



日本医療薬学会

第31回日本医療薬学会年会

メディカルセミナー25

医薬品採用時における医療安全の視点からの
評価とリスクマネジメント

— 医薬品採用時のデザイン評価の必要性 —

配信日時

2021年**10**月**10**日（日）

11:10~12:10

座長

平川 雅章 先生

福岡徳洲会病院 薬剤部 顧問

演者

菅野 浩 先生

済生会横浜市東部病院 薬剤部 部長
医療安全管理室

- WEB開催の為、メディカルセミナーの事前申込は実施いたしません。
- ご視聴の先生方は年会参加登録の上、セミナー視聴ページよりご視聴ください。

共催：第31回日本医療薬学会年会／あゆみ製薬株式会社



あゆみ製薬

抄録

医薬品採用時における医療安全の視点からの 評価とリスクマネジメント － 医薬品採用時のデザイン評価の必要性 －

菅野 浩

済生会横浜市東部病院 薬剤部

同 医療安全管理室

医療機関での採用医薬品の検討において、数多く上市されている医薬品のなかから治療に最適な製剤を選定することにしばしば難渋することがある。以前から医薬品の採用検討時には有効性および禁忌や副作用に関する安全性を中心に評価されてきた。近年は高額医薬品の台頭によるコストへの影響や後発医薬品の選定など経済性に関する評価についても重要性が増している。さらに先述の薬理的および製剤学的な安全性のみならず、取扱いにおける安全性、いわゆる医療安全上の評価と対策についても採用時に行うことが必要であり、その過程には包装および製剤デザインの評価が不可欠である。厚生労働省医政局より示されている“医薬品の安全使用のための業務手順書作成マニュアル”においても「製剤見本等を用い、製剤の形状・大きさや包装デザインなど識別性を確認の上、取り間違い防止、投与経路について客観的な評価を行うことが重要である。」と記載されており、各施設において安全使用のための業務手順書に採用時の医療安全上の評価を反映することが求められている。

採用の検討を行う薬事委員会では、薬理的評価に加え、リスク評価として処方する医師、調剤する薬剤師の視点のみならず、患者による“わかりやすさ”や日常的に取り扱う看護師の視点による検討も重要である。これまで様々な媒体にて公表されているインシデント・アクシデント事例において外観の類似性から取り違いエラーに繋がった事例が数多く報告されているにもかかわらず、依然として他薬と類似した包装デザインや規格等の識別性に乏しい製品が発売されているのも事実である。そのため採用時には製剤写真と製剤見本の“現物”確認は極めて有効な評価方法であり、当院では与薬カートヘットする場合などPTPシートが1錠ずつ切り離されて使用されることも想定して評価している。また調剤時のバーコードを活用したピッキング照合システムのデータ解析もインシデント対策として有効な手段である。本講では、当院の医薬品採用における医療安全の視点を加えた評価の実例について紹介する。